

## ■調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 【結果について】

### ■概要

今回調査のあった国語では、すべての項目で県平均を上回りました。特に「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域において全国、県平均ともに上回っていました。課題としては、基本的な「書くこと」については、正答率が高いが、知識や情報を組み合わせて記述する項目については、今後の授業形態の工夫等で高めていく必要があります。数学では、ほとんどの領域で全国平均を上回っており、全体的に無回答率も低く、記述式、思考を問う問題にも粘り強く取り組めていました。生徒質問紙からは、生活習慣や規範意識について、昨年度同様、高い傾向にあることがわかりました。特に「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」「周りを大切に考え協力する」についてはほとんどの生徒が肯定的な回答をしていました。

### ■強み・弱み

#### ①各教科

国語では、「話すこと、聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3つの項目は、全国平均よりも全て高い結果となりました。普段の授業において、大変積極的な姿勢であること、互いの意見を交流したり、そこで話し合った考えを基に自分の意見を深める授業形態を進めていること、また小学校から「書くこと」について、重点的に取り組んできたことによって「書くこと」への苦手意識が低いという背景があることが関係していると考えられます。数学では、すべての項目において、正答率が高く、無回答率についても低い結果であった。等式の変形や図形の証明など生徒が苦手とする領域で全国平均よりも大幅に向上しました。また、昨年度まで課題であった記述式の問題や思考を問う問題については正答率が高まり、改善が見られました。背景として授業の中で、じっくりと取り組む時間を確保することで、苦手な問題にも粘り強く解答しようとする姿勢が培われていると考えられます。

#### ②質問紙

起床時間や食事時間など生活習慣が整っている傾向が見られました。また、「いじめはどんな理由があってもいけないこと」などの規範意識についても、全国平均よりも大きく上回る結果となりました。基本的な生活習慣が確立され、様々な体験学習を通じて、人間関係が深まり、道徳や校内でのいじめ防止への啓発活動が、規範意識の向上につながっていると考えられます。一方、「人が困っているときは、進んで助けているか」や「学校に行くのは楽しいか」の問いに対して肯定的に回答した割合は、3年連続で全国平均よりも低いポイントとでした。「将来の夢や目標をもっているか」「困りごとや不安がある時に先生に相談できるか」の質問では、全国平均を下回っていました。普段の学校生活では、規範意識が高く、集団生活を円滑に過ごすため、様々な声掛けや配慮ができる生徒が多く見受けられることから、内面に不安を感じていたり、より高みに意識目標をおいて生活をしている生徒が多いと考えられます。したがって本校で3年間取り組んでいるキャリア教育（勤労・福祉体験学習）や教育相談機能を一層充実させ、「自己肯定感」のさらなる向上についてつなげていきたいと考えます。また昨年度までの課題であった「学習に取り組む時間」は全国平均よりも高く、改善されていることから、引き続き、自分で学習に取り組む習慣の確立や家庭学習の充実などに向けて、各教科でのICT活用を含む授業改善や助言等を進めていきます。

## ■指導の充実に向けて】

- ①授業改善と指導力の向上を目指し、「学び合い学習」や「主体的・対話的で深い学び」、「読み解く力を育成する取組」を推進します。
- ②基礎学力の定着に向け、授業での「めあて」の提示と「振り返り」の実施を徹底します。
- ③「家庭学習の進め方(手引き)」の活用を工夫し、適切な課題の設定を行います。
- ④朝学習の時間を充実させるとともに、放課後の時間の使い方を工夫し、学力補充の取り組みを推進します。
- ⑤様々な体験学習において、将来の生き方について考える機会をもち、たくましく生きる力を育みます。
- ⑥小学校との連携を充実させ、地域で系統立った学びの場を確保していきます。